

平成21年5月29日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2005 ～ 2008

課題番号：17203014

研究課題名（和文） ロシア資本主義と資金循環

研究課題名（英文） Russian Capitalism and the Flow of Financial Resources

研究代表者

田畑 伸一郎 (TABATA SHINICHIROU)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：10183071

研究成果の概要：ロシアでは、石油・天然ガスの輸出収入を軸とする資金循環が経済を規定しており、そこからロシア資本主義の特異性が生じていることを明らかにした。とくに、2000年以降の世界的な原油価格高騰のなかで、ロシアにおいて油価高騰に基づく家計消費主導の経済成長メカニズムが形成されたことを初めて統計的に明示した。この認識に基づいて中長期経済予測を行い、ロシアが輸入代替型の経済成長に移行する可能性を示した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	10,200,000	3,060,000	13,260,000
2006年度	9,400,000	2,820,000	12,220,000
2007年度	7,400,000	2,220,000	9,620,000
2008年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
年度			
総計	35,000,000	10,500,000	45,500,000

研究分野：ロシア経済

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：ロシア経済、資金循環、産業連関表、石油、天然ガス、独立国家共同体

1. 研究開始当初の背景

1992年からの体制転換のなかで、ロシアの経済制度は歴史的な変化を遂げ、ロシアでは資本主義的な経済制度が曲がりなりにも機能するようになった。しかし、ロシア資本主義は、社会主義の様々な残滓を留める一方、石油・天然ガスに代表される鉱物資源に依存する特異な資本主義であると考えられた。本研究グループは、1990年代からロシアの資金循環の分析を行ってきており、2000年代に入り、折からの原油価格高騰のなかで、ロシアにおいて特異な成長メカニズムが形成され始めたことから、その統計的・制度的な解明を目指す本研究を申請するに至った。

2. 研究の目的

ロシアの資金循環の面から、ロシア資本主義の特徴を明らかにすることを目的とした。とくに、次の3つを重視した。

- (1) ロシアの資金循環においてもっとも重要な石油・天然ガスの輸出収入の資金循環について、統計的な分析を深める。
- (2) 特異な資金循環をもたらしている制度的な要因を明らかにする。財政、税制、貿易などに関わる制度・政策のほか、石油・ガス産業、石油・ガス企業の構造を分析することにより、この点を解明する。
- (3) 石油・ガスの輸出収入の増大に基づく2000年以降の経済成長メカニズムの特徴を

明らかにしたうえで、ロシア資本主義の発展について中長期的な予測を行う。

3. 研究の方法

(1) 資金循環の統計分析については、ロシアの統計ごとに分担し（国民勘定、産業連関表、国際収支表など）、数量的な分析を多面的に行った。一部の作業は、ロシア統計局との共同作業として行ったため、通常は公表されていない統計資料を用いたり、統計方法についての知識を深めたりすることができ、資金循環の特異性についての深い分析が可能となった。

(2) 制度的な要因の分析についても、役割分担に沿って研究を進めた。基本的には、文献のサーベイによる研究であるが、それに加えて、毎年、共同の現地調査（とくに、省庁、研究所等における聞き取り調査、意見交換）を行い、その成果を活用した。

(3) 中長期経済予測については、資金循環や制度の分析で明らかにしたロシアの特異性を考慮に入れたモデルを作成した。

4. 研究成果

(1) 本研究の成果は、研究代表者・研究分担者の個々の論文・研究書にまとめられているほか、邦語、英語の2冊の研究書として出版されている。いずれも、研究代表者が編者を務めたもので、『石油・ガスとロシア経済』（北海道大学出版会、2008年）と *Dependent on Oil and Gas: Russia's Integration into the World Economy* (Slavic Research Center, Hokkaido University, 2006) である。いずれもいくつかの書評において高い評価を得ている（5の〔その他〕参照）。

(2) この研究によるロシア経済研究上の最大の成果は、2000年以降のロシア経済成長メカニズムの特異性を解明したことである。それについて、「油価高騰に基づく家計消費主導の経済成長メカニズム」という特徴づけを行った。より具体的には、以下の点を解明した。

①油価の高騰とGDPの成長との関係を統計的、理論的に検討した。GDP指標は原理的に油価高騰による輸出収入の増加を十分に反映できないことを明らかにしたうえで、交易条件の改善による交易利得を考慮に入れた実質国内総所得（GDI）指標が、GDP指標よりも油価高騰の影響を的確に反映することを明らかにした。

②油価の高騰と対外経済関係の影響を明らかにした。油価の高騰がロシアの貿易構造やロシアの比較優位にどのような影響を与えているかを統計的に分析し、ロシアの輸出の石油・ガス依存がますます強まっていること、ロシアの比較優位もこれらのエネルギー品目にますます限られるようになってい

とを明らかにした。

また、ロシアの資本取引に関する数量的分析を行い、資本流出から資本流入への大きな変化が2006年以降生じていることと、この変化をもたらした要因を明らかにした。

③油価の高騰と財政の関係を明らかにした。原油の採掘税や輸出関税が導入され、税率が原油の国際価格に連動する方式に修正された結果、油価高騰によって税収が自動的に増えていくシステムが築かれたことを明らかにした。また、この石油税収を財源とする安定化基金（いわゆる政府系ファンドの一種）が、為替管理やインフレ抑制などの点で果たした役割を分析した。この分析においては、サウジアラビアとの比較を行い、ロシアが石油税収について透明性のより高い運用をしていることを明らかにした。研究代表者の行った2大石油・ガス大国であるロシアとサウジアラビアのマクロ経済・財政の本格的な比較研究は、米国の学術誌に掲載され（後掲雑誌論文の①）、世界的にも初めての試みとして注目された。

④油価の高騰と為替レートとの関係を分析した。油価高騰のなかで、いわゆるオランダ病が深刻化し、製造業の発展が妨げられていることを明らかにした。輸入の規定要因が為替レートであるのか所得であるのかという点に関してはメンバーの間で意見の一致に至っていないが、研究代表者の策定した中長期経済予測モデルでは、為替レートであるとされている。

(3) 本研究では、以上のように、2000年以降のロシアの経済成長メカニズムを特徴付けたうえで、中長期経済予測を試みた。モデルとしては、極めて単純なものであるが、油価高騰が止まった後、輸入代替型の経済成長に移るという予測を行い、注目を集めた。このモデルと予測は、邦語では、『2020年のロシア』（平和・安全保障研究所、2008年）に収録された。それを発展させたものが、米国スラブ学会で報告され（後掲学会発表の①）、反響を呼んだ。この予測、とくに、輸入代替型経済成長への以降という予測は、油価が大幅に下落した後の時点においても有効であり、本研究の海外共同研究者（エフゲニー・ガブリレンコフ、ロシアの大手投資会社トロイカ・ダイアログの主任研究員）も支持しているところである。

(4) 本研究は、2008～2012年度の新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」（領域代表者 田畑伸一郎）の計画研究「持続的経済発展の可能性」（研究代表者 上垣彰）のなかで、中国、インドなどの地域大国との比較という新たな視点のもとで、継承・発展される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計30件)

- ① Shinichiro Tabata, The Influence of High Oil Prices on the Russian Economy: A Comparison with Saudi Arabia, *Eurasian Geography and Economics*, 査読有, 50巻1号, 2009, 75-92
- ② 田畑伸一郎, 岐路に立つロシア経済—マクロ経済と財政の視点から—, ロシアNIS調査月報, 査読無, 5号, 2009, 1-17
- ③ 田畑伸一郎, ロシア経済: 油価高騰による高成長の終焉, 国際問題, 査読無, 4号, 2009, 26-35
- ④ 塩原俊彦, ロシアの金融・経済危機, 三田評論, 査読無, 2号, 2009, 29-34
- ⑤ 中村靖, ロシアにおける輸出と輸入, 研究年報経済学(東北大学), 査読無, 2009, 近刊
- ⑥ 塩原俊彦, ロシアとウクライナの「ガス戦争」, 世界, 査読無, 3号, 2009, 20-24
- ⑦ 田畑伸一郎, プーチン政権下のロシア経済成長—油価高騰に基づく成長メカニズムとその行方—, ロシアNIS調査月報, 査読無, 5号, 2008, 13-29
- ⑧ 塩原俊彦, 「レイデル」をめぐる諸問題, ロシアNIS調査月報, 査読無, 9-10号, 2008, 34-49
- ⑨ 塩原俊彦, ロシアのエネルギー戦略はどうなっているか, 世界, 査読無, 11号, 2008, 274-282
- ⑩ Shinichiro Tabata, The Russian Stabilization Fund and Its Successor: Implications for Inflation, *Eurasian Geography and Economics*, 査読有, 48巻6号, 2007, 699-712
- ⑪ Shiobara Toshihiko, Globalizatsiia i vlastnye otnosheniia, *Ekonomicheskaiia nauka sobremennoi Rossii*, 査読有, 2号, 2007, 123-132
- ⑫ 田畑伸一郎, ロシアのマクロ経済と財政状況—「凍結」されるオイルダラーによる財政黒字—, ロシアNIS調査月報, 査読無, 5号, 2007, 22-38
- ⑬ 塩原俊彦, 「国家コーポレーション」と「ロシアテクノロジー」, ロシアNIS調査月報, 査読無, 12号, 2007, 11-24
- ⑭ 塩原俊彦, ロシアの金融サービス業をめぐる現状分析, ロシアNIS調査月報, 査読無, 2号, 2007, 1-18.
- ⑮ 服部倫卓, 2006年のロシアの外国投資受入状況, ロシアNIS調査月報, 査読無, 6号, 2007, 1-23
- ⑯ 中村靖, ロシア金融経済の現況: マクロ金融フレームワークの作成と分析, ロシア・ユーラシア経済, 査読無, 900号, 2007, 32-46
- ⑰ 中村靖, 資源ブームとロシア経済: National Accounting Matrixの行列分解分析, エコノミ

ア, 査読無, 57巻2号, 2007, 1-17

- ⑱ 塩原俊彦, ロシアの企業再国営化によるエネルギー企業の再編, 月刊エネルギー(日本工業新聞社), 査読無, 12号, 2007, 34-47
 - ⑲ Shinichiro Tabata, Observations on the Influence of High Oil Prices on Russia's GDP Growth, *Eurasian Geography and Economics*, 査読有, 47巻1号, 2006, 95-111
 - ⑳ Shinichiro Tabata, Observations on Changes in Russia's Comparative Advantage, 1994-2005, *Eurasian Geography and Economics*, 査読有, 47巻6号, 2006, 747-759.
 - ㉑ Shinichiro Tabata, Price Differences, Taxes, and the Stabilization Fund, Michael Ellman, ed., *Russia's Oil and Natural Gas: Bonanza or Curse?*, 査読無, 2006, 35-53
 - ㉒ 田畑伸一郎, ロシア経済構造の変容, 経済研究, 査読有, 57巻2号, 2006, 136-150
 - ㉓ 雲和広, ロシアにおける地域間人口移動, 経済研究, 査読有, 57巻3号, 2006, 208-223.
 - ㉔ 塩原俊彦, 資源大国ロシアの課題: 問われる産業政策, 国際問題, 査読無, 557号, 2006, 13-23
 - ㉕ 塩原俊彦, ロシアの鉄鋼メーカー集団をめぐる現状分析, ロシア東欧貿易調査月報, 査読無, 51巻4号, 2006, 1-24
 - ㉖ 服部倫卓, 2005年の日ロ貿易, ロシア東欧貿易調査月報, 査読無, 51巻5号, 2006, 1-13.
 - ㉗ 服部倫卓, 2005年のロシアの外国投資受入状況(詳報), ロシア東欧貿易調査月報, 査読無, 51巻7号, 2006, 1-22.
 - ㉘ Toshihiko Shiobara, Korporativnoe upravlenie v Rossii, *Ekonomicheskaiia nauka sobremennoi Rossii*, 査読有, 2号, 2006, 108-122
 - ㉙ 塩原俊彦, 資源大国ロシアとエネルギー安全保障, 世界, 査読無, 12号, 2005, 102-110
 - ㉚ 服部倫卓, 2004年のロシアの外国投資受入状況(詳報), ロシア東欧貿易調査月報, 査読無, 50巻7号, 2005, 24-44
- [学会発表] (計14件)
- ① Shinichiro Tabata, Russia's Economic Growth: Its Mechanism in 2000-2007 and Its Forecast until 2020, American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 20, 2008, Philadelphia
 - ② Akira Uegaki, Russia's International Financing under High Oil Price, American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 21, 2008, Philadelphia
 - ③ Shinichiro Tabata, Influence of the Oil Price Increase on the Russian Economy: A Comparison with Saudi Arabia, European Association for Comparative Economic Studies, Aug. 29, 2008, Moscow
 - ④ Akira Uegaki, Fiscal Policy under Budget

Surplus and Balance of Payments Surplus in Russia, European Association for Comparative Economic Studies, Aug. 29, 2008, Moscow

⑤ Shinichiro Tabata, The Stabilization Fund and after, American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 18, 2007 New Orleans

⑥ Akira Uegaki, How to Distribute Oil and Gas Revenues in Russia?: In Comparative Perspective, American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 18, 2007, New Orleans

⑦ 田畑伸一郎, ロシアの資本主義: 資金循環から見たその特徴, 比較経済体制学会秋期大会, 2007年10月27日, 法政大学

⑧ 中村靖, ロシア経済の中期的展望: 金融経済的側面から, 比較経済体制学会秋期大会, 2007年10月27日, 法政大学

⑨ Toshihiko Shiobara, Gazprom and the Russian Government: Concerning Pipeline Policy, 2007 Summer International Symposium of the Slavic Research Center "Dirty, but Warm: Energy and Environment in Slavic Eurasia and Its Neighborhood," July 5, 2007, Sapporo

⑩ Shinichiro Tabata, Changes in Comparative Advantage of Russia (1994-2005), American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 18, 2006, Washington DC

⑪ 雲和広, ロシアにおける地域間人口移動, 比較経済体制学会秋期大会, 2006年10月28日, 神戸大学

⑫ Shinichiro Tabata, Oil and Gas Export Revenues and Their Influence on Economic Growth of Russia, World Congress of International Council for Central and East European Studies, July 30, 2005, Berlin

⑬ Shinichiro Tabata, The Influence of High Oil Prices on Russia's GDP Growth, American Association for the Advancement of Slavic Studies, Nov. 4, 2005, Salt Lake City

⑭ 塩原俊彦, ロシア: 資本制経済のかたち, 比較経済体制学会, 2005年6月4日, 桜美林大学

〔図書〕(計6件)

① 田畑伸一郎 (編著), 石油・ガスとロシア経済, 北海道大学出版会, 2008, 290頁

② 塩原俊彦, ネオKGB帝国, 東洋書店, 2008, 275頁

③ 塩原俊彦, パイプラインの政治経済学, 法政大学出版局, 2007, 287頁

④ Shinichiro Tabata, ed., *Dependent on Oil and Gas: Russia's Integration into the World Economy*, Slavic Research Center, Hokkaido University, 2006, 115頁

⑤ 塩原俊彦, ロシア資源産業の「内部」, アジア経済研究所, 2006, 242頁

⑥ 上垣彰, 経済グローバリゼーション下のロシア, 日本評論社, 2005, 314頁

〔その他〕

本共同研究の成果をまとめた2つの共同執筆の図書(①と④)については, 以下のような書評が出ている。

図書の①については, 『日本経済新聞』(2008年7月13日), ESP(経済企画協会, 2008年10月), 『比較経済研究』(比較経済体制学会機関誌, 46巻1号, 2009年)に書評が掲載され, 専門的, 本格的な現在のロシア経済分析として, 高く評価された。

図書の④については, 英国のロシア経済研究の第一人者である Philip Hanson が, 英国王立国際問題研究所の *International Affairs* (Vol. 83, No. 2, 2007, p. 402) に掲載の書評で, 高い評価を示した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田畑 伸一郎 (TABATA SHINICHIRO)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号: 10183071

(2) 研究分担者

上垣 彰 (UEGAKI AKIRA)
西南学院大学・経済学部・教授
研究者番号: 70176577
中村 靖 (NAKAMURA YASUSHI)
横浜国立大学・大学院国際社会科学研究所・教授
研究者番号: 60189066
塩原 俊彦 (SHIOBARA TOSHIHIKO)
高知大学・人文学部・准教授
研究者番号: 60325397
服部 倫卓 (HATTORI MICHITAKA)
上智大学・外国語学部・非常勤講師
研究者番号: 70407386
(2008年度は連携研究者)
雲 和広 (KUMO KAZUHIRO)
一橋大学・経済研究所・准教授
研究者番号: 70314896

(2006年度のみ)

久保庭 真彰 (KUBONIWA MASA AKI)

一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号: 70111698

(2005年度のみ)

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

金野 雄五 (KONNO YUGO)
みずほ総合研究所・政策調査部・主任研究員